

## はじめに

23期 常任幹事 畑地 豊

23期幹事の三橋永一さんにごきげん伺いのつもりで電話したのは6月頃であつただろうか！

「今年の夏は子供達と白山に登山したいと思っている」との話であった。それから季節も移ろい早や晚秋を迎えた。月日の経過を速く感じるこの頃である。

**畠地** 「白山登山は実行されましたか！そのことを北辰会に投稿お願いしたいのですが！」と最近になってから再度電話を差し上げた。

**三橋** 「無事実行しました。投稿のことですが、極端に個人的な内容のことなので、投稿にふさわしいかどうか少し遠慮が伴うのですが、、」

私と違って彼らしい謙虚さのにじみでた言葉が返って来た。

私はこの時代にあって、この親と子供の絆、また80歳近くになって尚かなり高い山への登山と言う元気印、このことを広く会員の皆さんにご披露したいのです。とお伝えして一任してもらった次第でした。

尚、三橋さんの白山登山に関する以前の投稿作品は、ホームページ（下記参照）に掲載されています。ご存知のかたもいらっしゃるかも知れませんが、併せてお目通し頂ければと、このことご案内まで。

### 【参考】

- ① 投稿作品掲載 2019.08.12 23期三橋さんの八面六臂の大活躍
- ② 三橋さんの海外での主な登山実績
  - キリマンジャロ(5,895m)(タンザニア・1999年/8)
  - キナバル(4,095m)(ボルネオ・2007年/11)
  - アコンカグア(6,962m)(アルゼンチン/2011年/12・6000mでガイドストップ)
  - 玉山(3,950m)(台湾・2012年/11)

**追記** 私の人生哲学は“山は人生の学校”で、山で人生を学んだ事がが多いです。



# 今年一番の夏の思い出! (息子達との白山登山)

23期 幹事 三橋 永一



昨年、学生時代の後輩数人と白山(2703m)登山を計画していたのですが、天候も悪く、その上、室堂小屋の宿泊予約(コロナ禍の中宿泊予約済以外は泊まれず)も取れずに、断念を余儀なくされました。今年こそと小屋予約開始日に合わせて、予約電話を入れましたが、既に7月・8月の土日は予約客で満杯でした。何とか最後の白山登山と思っていましたが、平日の金曜日なら室堂小屋は空いていましたので、金曜日に予約を入れました。今回の白山登山の目的の一つは、私の田舎、福井県大野市に在る先祖の墓参りと親戚の方々も既に高齢ですので、お互いに元気な内にと思い、当初は私一人で登る予定でしたが、いつの間にか、長男(40歳)・次男(37歳)達が、親父が一人で登るのは心配?との事で、一緒に登りたいと言い出しました。



白山室堂・白山神社

## ◆白山(参考文献: ウィキペディアより)

白山(はくさん)は、日本の北陸地方、白山国立公園内の石川県白山市と福井県勝山市、大野市、岐阜県大野郡白川村にまたがる標高2,702mの活火山である。富士山、立山と共に日本三靈山の一つである。日本百名山、新日本百名山、花の百名山及び、新・花の百名山に選定されている。

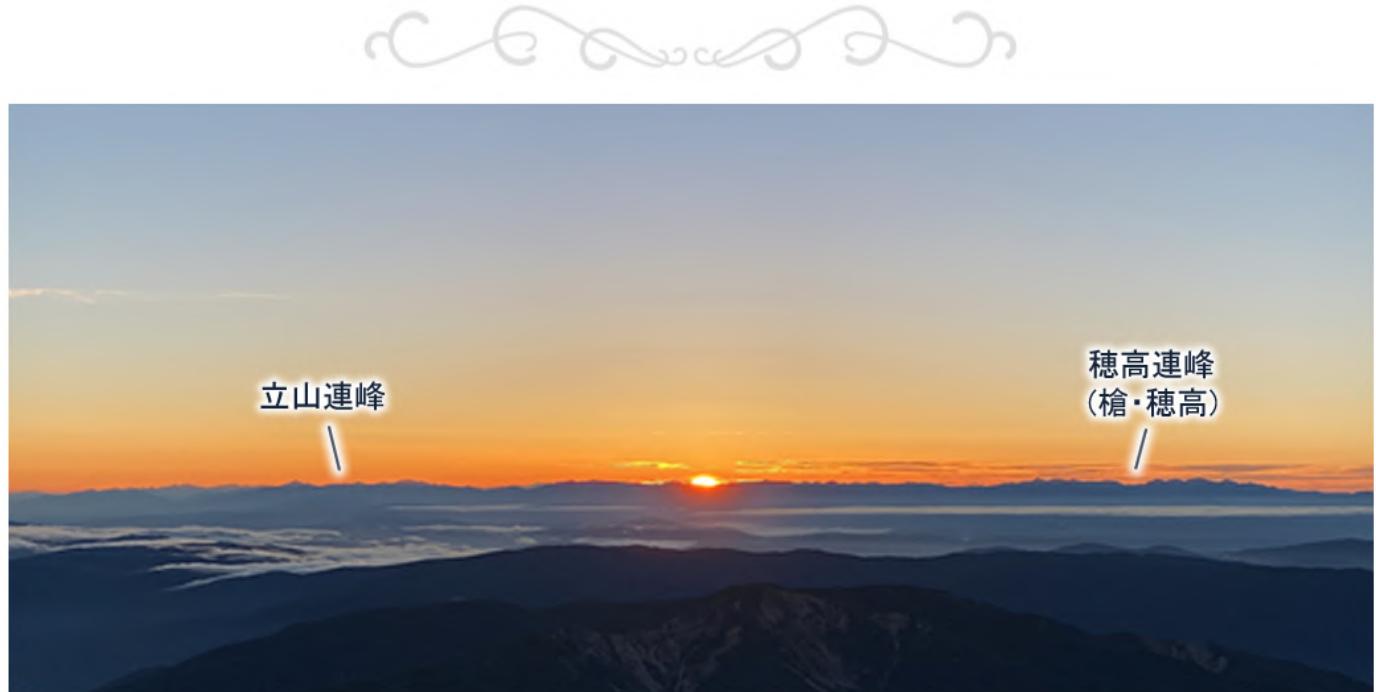
当初の登山計画では7月29日の夜に大阪を出発して、30日に室堂小屋(泊)・31日にご来光を見て、31日に下山後、一ノ瀬でキャンプ(泊)して、8月1日に大野の親戚に立ち寄り墓参りをして帰阪する予定を組んでいました。残念ながら今年も土日は小屋予約が出来ず、半ばあきらめていましたが、7月28日(木)の夜に河内長野を8時に出発して、一ノ瀬まで車で約5時間、一ノ瀬の駐車場は白山登山者の車で満杯でした。夜中の3時30分に一ノ瀬駐車場に到着。夜空を見上げれば、冬の星座のように、満天の星に、息子達は感激していました。早朝の5時に、一ノ瀬から白山登山口の別当出合までバスに乗り、別当出合で入山届を提出して、さあ！さあ！これから白山山頂目指し、勿論、私は、長男と次男を連れて一緒に山に登るのは初めてです。こんな組合せで山に登るのはきっと最初で最後だと思いながら、別当出合で、3人で記念写真を一枚撮り、丁度、6時過ぎに登り始めました。既に駐車場で個人装備の点検は済ませて、余分な装備は車に置いて行き、特にコンロ関係は私の装備を選んで私のリュックに入れていきました。中間地点の甚之助ヒュッテで、モーニングコーヒーで朝食と思いきや、コンロとカセットボンベの口が合わなくて使用不能で、モーニングコーヒー無しの朝食になりました。こんな失敗は初めてです。新しいカセットボンベを買った折に、コンロの口とボンベの口とを予備点検しないで持参したのです。モーニングコーヒーを飲んで、眠い身体を起こそうと思っていたのですが、残念！夜通し車中でしたので、一睡も出来ずに登り始めたので、登りはフラフラしながらの登りでした。先頭は長男で、私を挟んで次男が後ろでした。私は、白山登山は既に30数回登っているので、コースは熟知しています。今回は親父として、息子達を白山に連れて行ってやろうと思っていた次第ですが・・・！

昼過ぎに、ふらふらしながらも、何とか今日の宿泊地の室堂小屋に着きました。長男も次男も既にそれぞれ家庭を持ち、親父と一緒にこれまで山に登ったことはありませんが、彼らもきっと、この白山登山は親父や兄弟で登るのは最初で最後かと思います。

室堂小屋に着くや否や、長男は、ちょっと山頂に登って来ると言って！やっぱり若いので余裕やなと思いました。私は明日の天気が気になるので、小屋の天気図を見に行きましたが、明日も良い天気のようでした。



明日のご来光を期待しながら8時過ぎには就寝しました。疲れているのか、夜中の3時30分に長男に起こされるまで爆睡でした。日の出タイムは4時40分ですので、小屋から山頂まで40分程で着きます。ご来光まで、白山神社の神主が大きな声で白山から見える山々について解説してくれます。山頂の御前峰の眼前は槍・穂高の穂高連峰、その左側は立山連峰、右側は乗鞍、御嶽山、山頂から見える山々を見ていると、若い頃に登った記憶が蘇ってきます。待つこと30分、4時40分、立山連峰と穂高連峰の真ん中辺りから何時見ても神々しいご来光です。初日の出に合わせて、神主の音頭で、“世界の平和の為に、日本の平和の為に祈りましょう”万歳三唱をお願いします！万歳！万歳！万歳！余りの神々しい自然の営みに、息子達も感激していました。山頂でご来光写真を撮る為に、重いカメラを持って上がったのですが、ご来光寸前のシャッターチャンスにとカメラを構えて、シャッターを押した折に、スマートメディアが入っていないことが分かりました。折角、その為に重い一眼レフのカメラを持参したのに、ここでも失敗を犯してしまいました。直ぐに諦めて、息子達に依頼してご来光写真を撮ってくれるように頼みました。



2022年7月29日 ご来光(白山・御前峰より)AM4時40分撮影

今回の白山登山の前日、長姉が緊急に脳の手術が決まりましたが、命に別状が無いとの事で、息子達との登山を優先しました。

29日の金曜日、室堂小屋に着いた折に、三重県の名張に住んでいる上の姉(北辰会22期)から携帯に連絡が入りました。甥っ子が亡くなり31日にお葬式との緊急連絡が入りました。30日は一ノ瀬で、二度とない息子達とのキャンプの予定でしたが、息子達の申し出により、キャンプは取り止め、30日に、帰路途中の湯峰温泉で汗を流した後に、その足で大野の親戚に立ち寄り、挨拶と墓参りを済ませて、その日の内に河内長野に帰ってきました。今回の白山登山、親父として、息子達を白山に連れて行ってやろうと思っていましたが、実際は、息子達に連れて行ってもらった登山でした。長男に言われました。“親父、歳には勝てんやろ！”ほんまにそう思いましたが・・・喉元を過ぎれば熱さを忘れる・・・！もう次の目標、涸沢の素晴らしい紅葉、真っ赤なナナカマドや、ハケ岳で見た、ペルシア絨毯のような紅葉をもう一度見たいと思うようになりました。50数年に亘る私の登山歴の中で、今年の白山登山は忘れられない一番の思い出になりました。更にラッキーな事に、この登山時期が一週間遅れても、一週間早くても、山は大荒れでご来光どころではなかったです。天候に恵まれ、息子達と初めて一緒に登山が出来て、ご来光写真も撮れて、甥っ子のお葬式にも参列出来て、その上、中々行けない大野の親戚にも立ち寄せ、先祖の墓参りも出来て、忘れられない今年の白山登山でしたが・・・・・・疲れました！



編者注:写真は全て三橋さんの提供です